

日清オイリオグループビジョン2030

2030年に目指す姿とその戦略の指針として、「ビジョン2030」を策定し、「グローバルトップレベルの油脂ソリューション企業」への飛躍を目指しています。

その実現に向け、当社グループが注力すべき6つの重点領域(マテリアリティ)を定め、共有価値の創造に向けた取り組みを進めています。



- 19 「ビジョン2030」概要
- 20 目指す姿の実現に向けたCSV目標の見直し
- 21 重点領域 すべての人の健康
- 22 重点領域 おいしさ、美のある豊かな生活
- 23 重点領域 食のバリューチェーンへの貢献
- 24 重点領域 信頼でつながるサプライチェーン
- 25 重点領域 地球環境
- 26 重点領域 人材マネジメント

「ビジョン2030」概要

日清オイリオグループビジョン2030

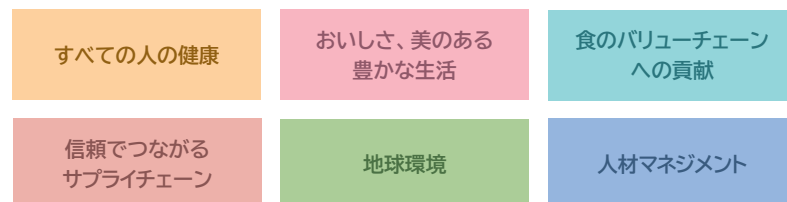
私たちは、“植物のチカラ®”と“油脂をさらに究めた強み”で、食の新たな機能を生み出すプラットフォームの役割を担います。そして多様な価値を創造し、“生きるエネルギー”をすべての人にお届けする企業グループになります。

- 私たちのコアコンピタンスは「油脂」です。油脂を究め続けることで、共創による油脂ソリューションを創出し続けます。
- 油脂の価値は、人が生きるための根源的なエネルギーであり、また、おいしい食事で人を笑顔に、栄養機能で人を健康に、美を演出し活力を与える無限のエネルギーでもあります。
- 6つの重点領域を通じて私たちが提供する油脂の多様な価値、そして油脂と相乗効果を発揮する素材・技術・事業から生み出されるエネルギーを“生きるエネルギー”と位置づけました。
- 私たちが目指すのは、この“生きるエネルギー”を一人でも多くの人にお届けする、そのような企業グループになることです。

経営目標

2030年度
ROE **10**% ROIC **7**%

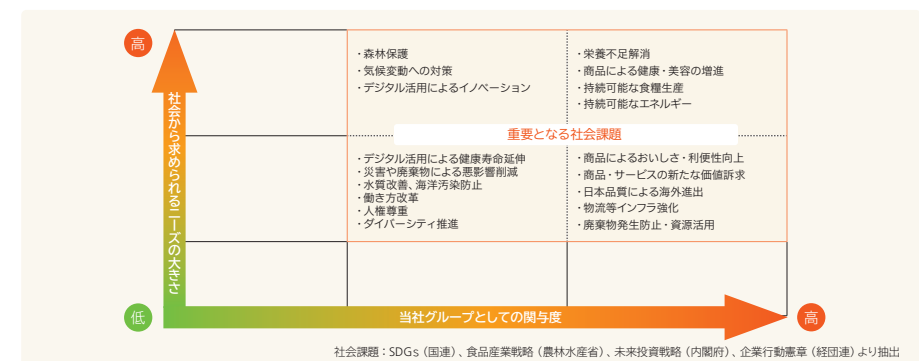
6つの重点領域



6つの重点領域（マテリアリティ）の特定プロセス

「ビジョン2030」で目指す姿の実現に向け、当社グループが注力すべき6つの重点領域を定めています。重点領域における課題解決を通じた社会との共有価値の創造（CSV）を成長ドライバーとしていきます。2030年に予想される社会動向から、当社グループにとってのリスクと機会を分析するとともに、価値創造に影響を及ぼしそうな社会課題を抽出し、「社会から求められるニーズの大きさ」と「当社グループとしての関与度」の2軸で評価し、重要となる社会課題を特定しました。そのうえで、当社グループの強みなども含めて総合的に判断し、6つの重点領域を特定、その領域でのCSV目標を設定し、目指す姿の実現に向けた取り組みを進めています。

重点領域の特定プロセス（「ビジョン2030」策定時）



6つの重点領域とCSV目標を設定

目指す姿の実現に向けたCSV目標の見直し

新中期経営計画「Value UpX」に合わせて、2025年度以降のCSV目標を見直しました。2030年およびそれ以降を見据えた社会課題・環境分析をもとに、「強みを活かしてできること・すべきこと」は何かという視点もふまえ、当社グループの企業活動が最終的に社会や環境、経済にもたらす成果（社会価値）からバックキャストで新たなCSV目標を設定しています。

今回の見直しにおけるCSV目標の考え方





重点領域

すべての人の健康



共有価値

人生100年時代を支える心身の健康づくりのため、特に低栄養、過栄養、体調・体質等のパーソナルな健康課題の解決に取り組みます

当社グループは、長年植物油脂を研究し、その栄養としての価値と加工技術を高め続け、おいしい食品や安全で高品質な素材として提供することができます。ライフステージや健康状態にあった「おいしい食事」と「食生活、食習慣」の提案を通じ、生涯にわたり、活力のある健康的な生活に貢献します。

成長ドライバーとしてのCSVと2030年度に向けた目標

実現したい社会価値 (社会・環境等にもたらす成果)	事業活動の成果 (社会価値創出のため、当社グループが実現すべきこと)	成果指標	2025年度目標	2028年度目標	2030年度目標
- ライフステージにあわせた栄養改善による健康増進 “体調が良いこと”を実感できる生活の実現	多様なライフステージで健康と活力を生む商品の提供	各年代の栄養改善や体調の良さの実感につながる商品の利益成長率（2023年度比）	125%	165%	—

CSV目標設定の考え方

ライフスタイルの多様化や高齢化の進展により、健康課題がますます拡大しています。特に脂質摂取に関する正しい知識や選択の重要性が増すなか、脂質が健康維持・増進に果たす役割に期待が高まっています。

当社グループは、脂質栄養に関する最先端の研究成果と豊富な科学的エビデンスを有しており、長年にわたり培ってきた「おいしさと高機能を兼ね備えた商品開発力」を強みとしています。これらの強みを活かし、栄養補給にとどまらず、ライフステージに応じた最適な価値を提供することで、活力ある健康的な生活に貢献できると考えています。

「Value UpX」では「健康と活力を生む商品提供」により、ライフステージにあわせた栄養改善による健康増進と消費者が“体調が良いこと”を実感できる生活をサポートすることに取り組んでいきます。

関連する事業の詳細は、[□ P.37](#)、[□ P.39](#)

Focus

多様なライフステージにおいて健康と活力を生む商品



“植物のチカラ®”で、カラダに良いこと。

- 最適な量や種類の脂質を摂取できるような食生活提案および適切な商品の提供
- フレイル・プレフレイル対策における油脂の重要性の啓発と脂質栄養を活かした食提案によるフレイル予防市場の創出





重点領域

おいしさ、美のある豊かな生活

共有価値

「おいしさ」と「美」をもたらし油脂を商品・サービスとして提供し、人々の「生活の質」(QOL)の向上に貢献します

「おいしさ」と「美」は、個人の価値観を構成する大切な要素であり、この価値観を満たすことは、人々が幸せな生活を送ることにつながります。「おいしさ」と「美」の追求を通じて、人々のクオリティー・オブ・ライフ (QOL) を高め、社会と共有できる価値を創造することで、生活をより豊かにし続けます。

成長ドライバーとしてのCSVと2030年度に向けた目標

実現したい社会価値 (社会・環境等にもたらす成果)	事業活動の成果 (社会価値創出のため、当社グループが実現すべきこと)	成果指標	2025年度目標	2028年度目標	2030年度目標
■ 食に対する生活者の多様な価値観の充足 ■ おいしい食事による楽しみ、満足感の提供 ■ “ナチュラルティ”の高い製品による安心感の向上 ■ “美”の体感を通じた幸福感の向上	おいしさとともにお客さまに共感される多様な価値を付加した商品の提供	ホームユース、ウェルネス食品領域のマーケティング・機能型商品の利益成長率(2023年度比)	150%	200%	—
	“美”の実現に関わるお客さまのニーズにこたえる商品の提供	ファインケミカル領域におけるスペシャリティオイルの利益成長率(2023年度比)	160%	210%	—

CSV目標設定の考え方

昨今、自然志向やサステナビリティへの関心は、世界的な広がりを見せています。このような社会的な価値観の変化を背景に、生活者の嗜好やライフスタイルは多様化し、食に対するニーズも大きく変化しています。また、グローバルでの中間所得層の拡大に伴い化粧品の需要が増加するなど、当社グループを取り巻く事業環境は大きく変わっています。当社グループは、多様な油種に関する豊富なノウハウと技術力、そして新たな食生活の提案力を強みとしています。これらを活かし、変化する社会で一人ひとりの価値観やニーズにこたえ、新しい価値の創造を目指します。

「Value UpX」では、「おいしさ」とともに、共感される多様な価値や“美”のニーズにこたえる商品を提供することで、食の楽しみや満足感、ナチュラルな製品による安心感、さらには“美”の実感を通じた幸福感の向上など、人々のQOLを高め、豊かな生活の実現に貢献していきます。

関連する事業の詳細は、[□□ P.39](#)、[□□ P.42](#)

Focus

“美”の実現に関わるお客さまのニーズにこたえる商品の提供

ファインケミカル事業では、ナチュラルティとスペシャリティの両面からお客さまのニーズにこたえる商品開発とこだわりのある化粧品原料を提供していきます。

- ナチュラルティは、製品の成分や製造プロセスが「自然由来」であることを重視する考え方で、生活者の健康志向や環境意識の高まりに応える重要な価値基準です。伸長する自然派化粧品市場において、当社グループならではの知見と技術、植物由来の素材としての特性を活かした化粧品原料を開発・提供していきます。特に、スキンケア/メイクアップ向けの新製品を提供していきたいと考えています。
- スペシャリティは、高品質で高機能の付加価値製品を指します。皮膚科学や界面化学等の科学的根拠に基づく技術開発を重ね、また、テクニカルサポート体制を強化し、メイクアップからスキンケア・ヘアケア等へ用途提案の幅を広げています。



商品例

- サラコスTG-810S (植物由来の新世代ベースオイルで、密着性、耐水性、顔料分散性に優れており、口紅、ファンデーション等幅広く利用可能)
- サラコスDG-HS (植物由来多機能ポリマーエステルで、サンスクリーン等に最適)
- サラコスDT8、サラコスDP810 (ベースメイクや基礎化粧品等に配合でき、なめらかな使用感で各層水分量を高める新規エモリエント剤)
- EMOLID ISN (落ちにくいメイクを落とす高クレンジング性植物由来エステル)



重点領域

食のバリューチェーンへの貢献



共有価値

お客さまと共に技術・商品・サービスを磨き、お客さまが創造する価値を高めます

世界の油脂需要は増加しており、社会・環境の変化とともに使われ方も多様化しています。当社グループは植物資源の価値を技術でさらに高め、お客さまとの共創を通じ、社会が求めるソリューションを実現します。安心を生む製品・サービスの安定した提供と、価値の創造を通じて、食のバリューチェーンに貢献します。

成長ドライバーとしてのCSVと2030年度に向けた目標

実現したい社会価値 (社会・環境等にもたらす成果)	事業活動の成果 (社会価値創出のため、当社グループが実現すべきこと)	成果指標	2025年度目標	2028年度目標	2030年度目標
■ グローバル市場における 新たなお客さまへの油脂 ソリューションの提供	BtoB市場におけるユーザーベネフィットを追求 したソリューションの提供	グローバル油脂・加工油脂の利益成長率 (2023年度比)	160%	210%	—
		グローバル油脂・加工油脂における資本 投下、施策の進捗	東南アジアにおける販売拠点・ ユーザーサポート機能拡充	グローバル3極(北米、欧州、アジア)に おける生産・マーケティング基盤の構築	—
		チョコレート用油脂の利益成長率 (2023年度比)	140%	175%	—
■ お客さまとの共創を通じ た油脂機能の拡大とユー ザーベネフィットの最大化		国内BtoB 向けマーケティング・ 機能型商品の利益成長率(2023年度比)	110%	130%	—
		油脂・油糧および加工食品・素材事業の ROIC	4.3%	5.5%	—
■ 国内における持続可能な 食エネルギーの安定供給	日本の食を支える油脂とミールの安定供給	将来の需要動向を見据えた油脂と ミールの安定供給体制の維持・確立	生産・供給体制の再構築に向けたスキームの策定と一部投資の実行		50年先を見据えた最適な油脂・ミ ールの供給体制の再構築(～2035年)

CSV目標設定の考え方

近年、グローバルにおいては人口や中間所得層の増加に伴い食品産業が発展・拡大しています。油脂に求められる機能も多様化するとともに、気候変動などによるカカオの収量減少に伴うチョコレート用油脂の需要増加等、油脂ソリューションの提供機会が拡大しています。一方で、国内においては、国際競争力の維持・拡大を前提とした搾油事業における生産・供給体制の再構築が課題となっています。

当社グループは「Value Up +」で培った技術力とお客さまとの共創基盤、サステナブルな原料調達や生産・加工技術を活かし、「Value UpX」を通じてユーザーベネフィットを追求するソリューション提供と油脂・ミールの安定供給を強化していきます。そして、これらの取り組みにより、グローバル市場における新たなお客さまへの油脂ソリューションの提供や、共創による油脂の新たな機能の創出、また国内では、持続可能な食エネルギーの安定供給を前提とした取り組みを進めていきます。

関連する事業の詳細は、□□ P.37, □□ P.39

Focus

ISF タイにおける合併販売会社設立
東南アジア市場での価値提供拡大を目指して

ISF (マレーシア) は、PCE社※とともにタイにNitthai Specialty Oil & Fats CO., Ltd. を2025年7月に設立しました。タイは世界第3位のパーム油生産国であるのみならず、同国の食品関連市場は裾野が広く、また進出している日系食品企業も多いことから、パーム産業にとって有望な市場に成長しています。ISFグループの持つパーム油加工技術の知見を活かすとともに、合併パートナーであるPCE社の持つ強力なパーム油サプライチェーン資産の有効活用によってタイにおける原料調達力および製品販売力を強化し、ISFのアジア市場戦略を強力に推進していきます。

※ Petchsriwchai Enterprise Public Company Ltd.



重点領域

信頼でつながるサプライチェーン

共有価値

誠実さを大切に、強く、しなやかなサプライチェーンを構築します



日本の食を支える、重要な素材・エネルギーの供給者として、持続可能な方法で生産された原料を用い、お客さまにお届けするまでの品質に常に真摯に向き合うことで、トレーサブルで透明性の高いサプライチェーンの構築に努めます。そして、安全な製品の供給と透明性が高いコミュニケーションを通じてお客さま・社会との信頼関係を構築します。

成長ドライバーとしてのCSVと2030年度に向けた目標

実現したい社会価値 (社会・環境等にもたらす成果)	事業活動の成果 (社会価値創出のため、 当社グループが実現すべきこと)	成果指標	2025年度目標	2028年度目標	2030年度目標
社会的品質・持続性を伴う サプライチェーン構築による 食糧の安定供給	競争優位性を高める持続可能な 原料調達のためのサプライチェーン構築	農園までのトレーサビリティ比率 (パーム油)	94%	97%	100%
		人権尊重を基盤とした事業活動の 進捗	人権デュー・ディリジェンスの仕組み を主要子会社へ展開2社以上	人権デュー・ディリジェンスの仕組み を主要子会社へ展開10社	人権侵害を発生させない仕組み構築
		持続性、戦略性を高めた原材料調 達の施策の進捗 (大豆、カカオ等)	【大豆】大豆モラトリアム※1に加盟して いるTier3 (現地集荷業者) の供給力 調査 【カカオ】サステナブルカカオ豆の取り 組み実績の公開	【大豆】大豆モラトリアムに加盟してい るTier3からの大豆調達90% 【カカオ】エクアドルの固有種であるア リバ種カカオのプランテーションでの 生産の実現	安定供給を前提とした持続可能な原 料調達
	効率性・持続性の高い 物流ネットワークの構築	F-LINEによる共配函数比率	22%	27%	30%
		トラックドライバーの拘束時間※2	平均60分以内	平均45分以内	平均30分以内

※1 2008年7月以降の森林開拓を排除
※2 日清オイリオ単体の工場内、4拠点平均

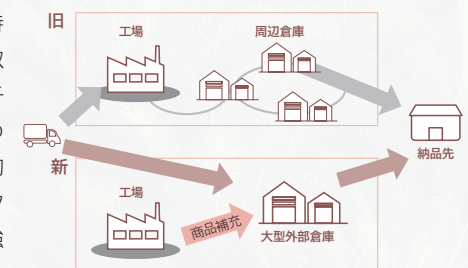
CSV目標設定の考え方

国際社会において人権や環境問題が深刻化するなか、企業にはより高いレベルでのサステナビリティ対応が求められています。気候変動や地政学的リスクによりサプライチェーンの断絶や原料調達のリスクが高まっています。加えて、世界的な人口増加やバイオディーゼル需要拡大は植物資源の需要逼迫リスクを増大させており、サステナビリティへの取り組みが、企業の持続性を高めると共に、ステークホルダーから選ばれる企業の重要な要素となっています。

当社グループは「Value Up+」において、高いトレーサビリティの実現や人権尊重を基盤とする事業活動や物流効率化に努めてきました。「Value UpX」においては、持続可能な調達体制や効率性・持続性が高い物流ネットワークの構築にさらに注力していきます。そして、不確実性が高い環境下でも社会的品質と持続性を兼ね備え、食糧の安定供給という社会価値を創出する持続可能なサプライチェーンを構築していきます。

Focus 効率性・持続性が高い物流ネットワークの実現

物流問題解決のために、ドライバーの拘束時間短縮 (待機+積込荷役にかかる時間) への取り組みがより一層求められています。横浜磯子工場では、ドライバーの拘束時間の短縮のために、複数あった外部倉庫を大型外部倉庫へ集約し、効率的かつ持続性の高い物流ネットワークを実現しています。今後もサプライチェーンの強化に向けた取り組みを推進していきます。



集荷拠点を集約し、積み込み作業や待機時間を削減



重点領域

地球環境

共有価値

地球環境を次世代に引き継ぐために未来を見据えて挑戦します



植物資源を事業のベースとする当社グループにとって、地球環境や資源の保護は事業の持続性そのものです。次世代のため、脱炭素社会、循環型社会の実現を目指し、未来を見据えて事業活動での環境負荷を最小限にする取り組みを進めるとともに、環境課題の解決に資するビジネス領域の構築を進めます。

成長ドライバーとしてのCSVと2030年度に向けた目標

実現したい社会価値 (社会・環境等にもたらす成果)	事業活動の成果 (社会価値創出のため、 当社グループが実現すべきこと)	成果指標	2025年度目標	2028年度目標	2030年度目標
脱炭素・循環型社会の実現	脱炭素・循環型社会において 選ばれる企業への進化	CO ₂ (スコープ1、2) 排出量削減率 (2016年度比)	22% (単体 26%)	31% (単体 40%)	50%
		CO ₂ (スコープ3) 排出量削減率 (2020年度比: カテゴリー1、4から取り組み開始)	カテゴリー1) 大豆・菜種GHG排出量 ^{※1} の科学的算定方法の確立: 1か国以上 (4か国中)	カテゴリー1) 業界団体や行政と連携し生産国と大豆・菜種GHG排出量 ^{※1} の科学的算定方法を確立: 3か国以上 (4か国中) GHG排出量削減を可視化した大豆調達を開始	25%
		プラスチック容器・包装の資源循環の推進進捗	当社「油付きPETボトル」の再生と自社製品ボトルへの利用による資源循環の実現 ^{※2}	他社製造品含む「油付きPETボトル」の資源循環の仕組みの拡大 (複数リサイクルでの展開、油製品以外への利用)	資源循環につながる容器・技術・サービスの開発や仕組みの実現
		石油から新たに作られるプラスチック容器の原単位削減率 (2022年度比) ^{※3}	5%	10%	15%
		植物資源、当社グループ技術を活用した環境にポジティブインパクトを与える商品・サービスの利益成長率 (2023年度比)	110%	155%	—

※1 温室効果ガス排出量

※2 当社製造工程由来品 (未出商品) の油付きボトルから作ったレジン (素材) を、当社製品ボトルの原材料として使用

※3 ボトル、キャップが対象

CSV目標設定の考え方

世界的にカーボンニュートラル実現に向けた取り組みが加速し、環境規制も強化されています。こうした流れを受けて、環境価値の高い商品やサービスの重要性が増しており、企業にとって積極的な環境対応が不可欠になっています。このような環境対応へのニーズは新たなビジネスチャンスを生む一方、対応の遅れは競争力の低下や事業継続のリスクを招きます。

当社グループは「Value Up +」を通じて、2050年のカーボンニュートラル実現に向けては省エネの着実な実行や再生可能エネルギーの利用、循環型社会の実現に向けてはプラスチック削減製品の開発等を推進してきました。これらの成果や取り組みを通じて得られたノウハウを活かし、「Value UpX」ではCO₂排出量削減やプラスチック削減・資源循環、環境にポジティブインパクトを与える商品の展開をさらに加速させていきます。そして、脱炭素・循環型社会において選ばれる企業へと進化していきます。

Focus 環境目標2030

当社グループは環境理念・環境方針と、CSVの重点領域の考え方をふまえ、サステナビリティの実現に向けた具体的な取り組みとして「環境目標2030」を策定し、取り組んでいます。

テーマ	主な取り組み
気候変動の防止	■ サプライチェーンのGHG排出量を削減 (Scope 1、2、3の削減) ■ 再生可能エネルギーの利用を推進
資源循環の構築	■ 生産工程における再資源化の推進 ■ 生産に利用する水資源の効率的利用
植物資源/ 自然保全	■ 持続可能な原料の調達を推進 ■ 自然保全活動の推進
環境に配慮した 開発の推進	■ プラスチック容器・包装の削減と資源循環を推進 ■ 植物資源を活用した、環境にポジティブインパクトを与える商品・サービスの開発

環境目標2030の詳細と実績 <https://www.nisshin-oillio.com/company/sustainability/environment/target.html>



重点領域

人材マネジメント



共有価値

多様な人材の働きがいを高め、組織能力を向上し、イノベーションを起こします

当社グループの持続的な成長には、多様な視点に基づく創造性は欠かせません。ダイバーシティの実現と、常に社員の健康増進や教育、幅広い経験のための機会の創出に努め、社員一人ひとりの働きがいを高めることで、組織能力を高め、バリューチェーンのあらゆる場面においてイノベーションを起こします。

成長ドライバーとしてのCSVと2030年度に向けた目標

実現したい社会価値 (社会・環境等にもたらす成果)	事業活動の成果 (社会価値創出のため、当社グループが実現すべきこと)	成果指標	2025年度目標	2028年度目標	2030年度目標
多様な人材の働きがい向上・能力の発揮によるイノベーションの創出	グループの理念・ビジョンへの共感	グループの経営理念・ビジョン2030への共感指数	共感社員 95%以上 共感度の高いコア層15%以上	共感社員 95%以上 共感度の高いコア層 20%以上	共感社員 95%以上 共感度の高いコア層 25%以上
	強固な人材力の構築／多様な人材の活躍	人材開発投資額 (社員一人あたり年間教育費)	80千円以上	88千円以上	95千円以上
		仕事を通じた社員の 「成長志向」と「成長実感」割合	成長志向95%以上 成長実感82%以上	成長志向 95%以上 成長実感 85%以上	成長志向 95%以上 成長実感 90%以上
	イノベーションを生み出す組織風土への進化	女性管理職比率(単体)	10%	16%	20%
		「働きがい」を感じる社員の割合	70%以上	75%以上	80%以上

CSV目標設定の考え方

当社グループは人材を持続性と成長の原動力と捉え、2030年に向けては、「強固でレジリエントな人材基盤の構築」と「選り選ばれる、魅力ある会社・組織風土づくり」という2つの方針を掲げ、人材マネジメントを推進します。急速に変化する市場競争や顧客ニーズに対応するには、戦略を実行する人材の確保とともに、働きやすい組織風土の醸成が不可欠です。

「Value UpX」では多様な人材が能力を最大限に発揮できる環境を整え、新たなアイデアや技術の創出につなげていきます。これにより、多様な人材の働きがいを向上させ、社会に貢献する価値創造を推進します。

Focus 経営理念・ビジョン2030の共感指数向上に向けて

「ビジョン2030」で目指す姿を実現していくためには、当社グループの全社員が理念やビジョン、企業価値に共感し、誇りを持って主体的に行動することが最も重要です。今後も情報発信の強化や教育・ワークショップの実施、経営層と社員の対話の場づくりといった取り組みを進めていきます。

共感指数向上のための主な取り組み

経営トップからの定期的なメッセージの発信
(イントラネット、統合報告書、年始訓示等)

理念やビジョンの理解促進を目的とした
グループ報への特集記事掲載

管理職研修や階層別研修における経営層からの講話

入社時研修での理念・ビジョンの読み合わせ

グループ意識調査を通じた定点観測と
課題抽出による施策検討